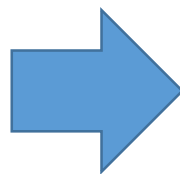


12月5日(月)

5年生 わくわく農業体験事業 総合的な学習の時間 「米作りに挑戦」

5年生の社会科では「我が国の農業や水産業における食糧生産」について学びます。生産者の苦労や、食料自給率のこと、効率的な生産方法などを様々な資料や映像から知り、昔を今を比較しながら今後の食糧生産の課題や解決策を考えました。お米は子どもにとって身近な食糧ですが、皿倉小学校で実際にコメ作りをした経験を持つ子どもはあまりいません。そこで、5年生は北九州市の「わくわく農業体験事業」に申し込み、総合的な学習の時間に北九州市立総合農事センターのご協力をいただいて、ペットボトルを使ったコメ作りに取り組んできました。

6月の植え付け、10月の収穫を終え、今週はいよいよ精米です。



一人1ボトルずつに責任を持って育てた大事なお米。それぞれ、自分のお茶わん1杯分の収穫を期待していましたが、台風がきたり、暑さで水が干上がってしまったりなどを経験し、作物を育てるときに天候が大きく影響することをみんな実感したようです。一粒ずつ協力して収穫した粳。脱穀し玄米にして精米すると、ようやく見慣れた白米になりました。

お茶わん1杯分のお米の尊さ、分かったかな。



12月6日(火)

皿倉小学校人権週間



毎年、12月は人権について考える学習を行っています。代表委員会では校内でのあいさつや笑顔を大切にすることを各クラスの代表者が話し合ったり、「身近なともだちを大切にすること」や「お互いのよさを知り認め合うこと」をテーマに、給食の放送で各クラスの学級目標や良いところ、がんばっていることを紹介する活動をしたりすることになりました。

昨日から始まったこの放送は、6年生から順に全クラスの代表が1週間にわたって行います。また、心を込めて書いた習字の作品も校内に掲示しています。



人権週間作品

12月7日(水)

2年生生活科 もっとなかよしまちたんけん

雨により延期になっていた「もっとなかよしまちたんけん」に、今日の2・3校時ようやく行くことができました。今回は、帆柱方面や春の町方面を歩いて、まちの様子を観察したり地域の人たちにあいさつしたりしました。今日は、お店の人ともお話することができて、前のたんけんよりももっと学校のまわりの町となかよしになれたようです。



交通ルールや歩くときのマナーを守って、安全にまちたんけんをしましょう。



明治時代につくられたアーチ形トンネル



帆柱1丁目西公園でちょっとひと休み



皿倉山に向かってどんどん上り坂を歩きます。



新鮮なやさいやくだもの
がならぶお店



あいさつすると「がんばりよるね。」とえがおでほめてもらいました。



「こんにちは。わたしは、皿倉小がでる前の天神小学校を卒業したんよ。」

と理容室ナカノのお店の方が優しく声をかけてくださいました。

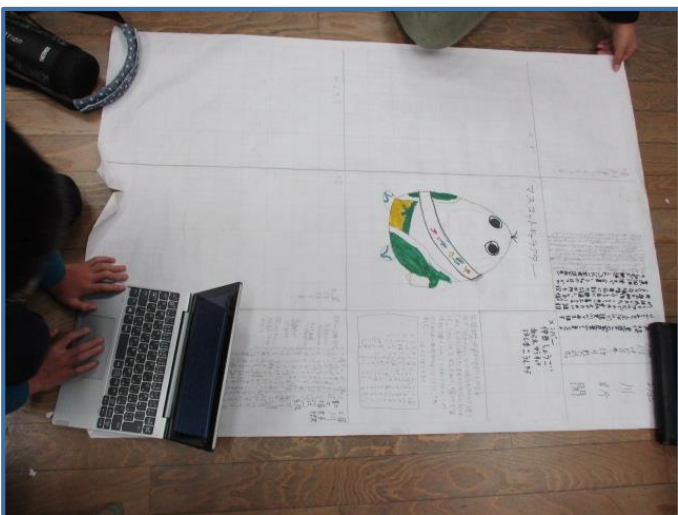
また、何人もの方がこころよく写真を撮らせてくださいました。

ありがとうございました。

12月8日(木)

4年生社会科 学習のまとめ 新聞づくり

4年生は、社会科で学んだことの中から自分がもっと調べたくなったり興味があることについてさらに調べ、新聞にまとめる学習をしています。



調べたことの中からどれを記事として書くか話し合いながら、新聞づくりをすすめています

テーマは「水」「堀川の歴史」「環境問題」「福岡県の自然」「防災」など、様々です。

タブレットがあることで、児童の興味や関心が多岐にわたっても、調べる際の資料不足などを心配することなく、学習活動を行うことができます。

また、学校のネットワーク環境で、安全なサイトのみを閲覧することができるので、正しい情報や子ども向けに開設されたページを参考にすることができます。

12月9日(金) いのちのたび博物館特別展



いのちのたび博物館のHPの画像の使用許可を得ています。



うなぎの赤ちゃん
レプトセファルス

いのちのたび博物館は、今年で開館20周年を迎えるそうです。

その記念特別展が12月10日から始まるにあたって、オープニングセレモニーが行われました。

「皿倉小学校のみなさん、オープニングセレモニーでテープカットしてもらえませんか？特別展を見学しに来ませんか？」というお誘いを10月下旬にいただきました。

特別展は「うなぎの旅展」と聞いてすぐに「4年生が行かせていただきます。」とお返事しました。

なぜなら、4年生は国語で「うなぎのなぞを追って」という科学的読み物を教材として、興味を持ったことを中心に紹介する文章を書く学習をするからです。うなぎがどこでどのように生まれ、成長し、日本にやってくるのかは、長年のなぞだったということや、それを研究によって突き止めたチームのことが書かれた文章でしたね。

5・6年生の中には、「ああ、あれね。」と覚えている人もいるかもしれません。ぜひ特別展に行ってみてはいかがでしょうか。